

兵庫県山地性オオウラギンヒョウモン について (IV)

(卵形態の変異の調査)

近藤伸一

はじめに

表1、卵底部における縦隆起条数

タテハチョウ科の卵は、一般的には円錐台型又はまんじゅう型で、卵殻面には縦隆起条が上部精孔帯から下部卵底にかけて、ちょうどスイカの模様のように走っている。オオウラギンヒョウモンの卵は、縦隆起条が側面で数をふやし、卵底で最多となる。

母蝶	産卵期	縦隆起条数											合計
		18	19	20	21	22	23	24	25	26	27		
No.1 (関宮町)	初期 0~609	2	0	0	0	11	30	35	13	3	1	96	
	中期 610~1000	0	0	0	2	5	10	23	19	8	1	68	
	後期 1001~1507	0	0	0	2	6	18	32	12	4	0	74	
	小計	2	0	0	4	22	58	90	44	15	2	237	
No.2(関宮町)	初期 0~500	2	2	11	14	24	12	9	0	0	74		
No.3 (日高町)	初期 0~150	1	0	14	17	4	1	0	0	0	37		
	後期 750~850	0	1	5	3	13	18	3	1	0	44		
	小計	1	1	19	20	17	19	3	1	0	81		

1981年兵庫県関宮町産の母蝶から得た卵の縦隆起条数を調べ、卵の形態に個体差とともに地域差も存在するのではないかと推定した。

この度兵庫県内の新産地(日高町)の卵の形態を調べる機会があったので、関宮町産の卵の形態の調査とあわせて報告する。

1、母蝶の採集場所及び産卵

No.1 ♀…兵庫県養父郡関宮町東鉢伏
産卵 (1981, 9, 30~10, 21)産卵数1507

No.2 ♀…兵庫県養父郡関宮町東鉢伏
産卵 (1983, 9, 24~11, 9)産卵数 1776

No.3 ♀…兵庫県日高郡日高町神鍋
産卵(1986, 9, 25~11, 13)産卵数約850
(木村三郎氏採卵)

2、卵底部の縦隆起条数について

No.1 ♀~No.3 ♀から得た卵を産卵期別に抽出し、縦隆起条を調査した(表1)。

No.1 (関宮町産)の縦隆起条数は23.8本(加重平均) No.2 (関宮町産)は21.7本であり、No.3 (日高町産)は21.5本であった。

同じ母蝶の産卵期別の縦隆起条数は、No.1ではほとんど同じ傾向を示したが、No.3では初期(0~150)で20.7本、終期(750~850)で22.3本と明確な差が生じた。

3、縦隆起条の上部と下部の関係

上部精孔帯から下部卵底に走る縦隆起条の中間に1本から2本の縦隆起条がおこるため、卵底の縦隆起条数は上部の数の2倍以上となる。

各母蝶の卵ごとに上部と下部の縦隆起条数の関係を表に示す。

表2、No.1(関宮町産)の卵の上部及び下部の縦隆起条

上部 \ 下部	18	19	20	21	22	23	24	25	26	計
8	1	0	0	1	0	0	0	0	0	2
9	1	0	0	0	3	1	1	0	0	6
10	0	0	0	1	5	14	16	4	3	43
11	0	0	0	0	2	5	5	4	3	19
12	0	0	0	0	0	1	2	2	0	5
合計	2	0	0	2	10	21	24	10	6	75

表3、No.2(関宮町産)

上部 \ 下部	18	19	20	21	22	23	24	計
7	0	0	1	0	0	0	0	1
8	1	0	4	8	8	5	4	30
9	1	2	6	6	14	5	5	39
10	0	0	0	0	2	2	0	4
合計	2	2	11	14	24	12	9	74

表4、No.3 (日高町産)

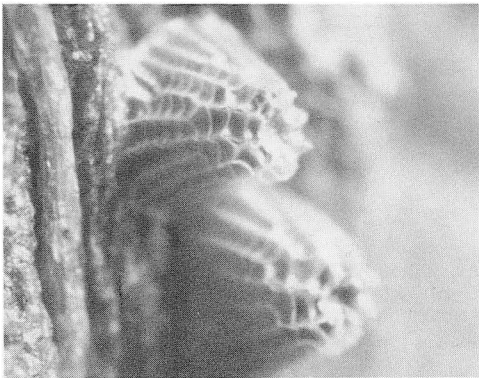
上部 \ 下部	20	21	22	23	計
8	1	6	0	1	8
9	0	4	1	0	5
10	0	0	0	0	0
11	0	1	0	0	1
合計	1	11	1	1	14

おわりに

今回は強制産卵させた3♀のオオウラギンヒョウモンの卵の一部について、縦隆起条数だけを調査したが、3例とも同じ母蝶から採取した卵の中で、形状にかなりの個体差が存在した。また同一の産地であるNo.1とNo.2の母蝶の卵の間にも明らかな差異が存在した。

本種の卵に地理的変異があるかどうか興味あるところだが、No.1、No.2、とNo.3の両者の間に差を認めることは出来なかった。今後調査数を増やすこと及び他産地の卵の調査を進めていくことにより、明らかになると思われる。

本調査にあたり、貴重な卵をいただいた木村三郎氏卵の調査に御協力いただいた山口福男、矢野進治、福永智子の諸氏に深くお礼を申しあげる。



撮影者…山口福男

<参考文献>

近藤伸一 兵庫県の山地性オオウラギンヒョウモンについて (II)
(てんとうむしNo.8 181~185)

白水隆 原章…原色日本蝶類幼虫大図鑑 (保育社)

牧林 功 チョウの幼虫の形態 (ニューサイエンス社)
(S.62:Shinichi Kondo 神戸市)

材から得たカミキリ

花岡 正

1984年から1986年にかけて、県下の3地区の材から得たカミキリを報告する。

美方郡浜坂町

①キブシ ①ヒメクロトラ②トゲヒゲトラ③コジマヒゲナガゴバネ④ヒメヒゲナガ⑤ケシカミキリ⑥トワグムモン⑦シロスジドウボソ (4日に越冬成虫、幼虫割出)

⑧カラスザンショウ ①ヒトオビアラゲ②フタオビアラゲ③キボシカミキリ④タイワンメダカ

⑤カクレミノ ①タテジマカミキリ (1985、VII、29羽脱)

⑥タブ ホシベニの幼虫だけ確認

宍粟郡波賀町赤西、音水渓谷

①エゾエノキ ①アカネキスジトラ②ホソツヤヒゲナガゴバネ③クワサビ④シロオビゴマフケシ⑤エゾサビ⑥クモガタケシ⑦キッコウモンケシ⑧トゲバ⑨ナガゴマフ⑩アカジマトラ⑪クリサビ⑫トラフホソバネ⑬ホソヒゲケブカ⑭ニイジマチビ⑮ヨコヤマトラ (1985IV、22、1♀、IV231♂脱出)

⑯ケヤキ ①トガリバアカネトラ②キンケトラ③ヒメクロトラ④タギグチモモト (一瀬氏) ⑤ナカジロサビ

⑥モミツガ ①ヤマトシロオビトラ②セミスジコブヒゲナガ③キボシチビ (1985VI 4脱出)④ヒトオビチビ (吉田氏) ⑤ツヤケシハナ⑥ニンフホソハナ

⑦カラスザンショウ ①キイロアラゲ (1985VI20より脱出、多数) ②タイワンメダカ③フタオビアラゲ④ヒトオビアラゲ⑤トラフホソバネ (黒田、吉田氏) ⑥チャボヒゲナガ

⑧ブナ ①タカオメダカ②フタオビミドリトラ③クモガタケシ④ガロアケシ⑤フタモンアラゲ

⑨カエデ ゴイシモモト

⑩フジ ①カッコウメダカ②トガリシロオビサビ③アトモンマルケシ

⑪ヤマグワ ①キバネアラゲ